

# 講演会 & ライブ な日々⑥

シンガーソングライター

ふるかわひであき

「中国、韓国、日本のお母さんが手をつなぎ、子ども達を戦争に行かないようにつながりましょう！」というメッセージを込めた歌を作り講演会&ライブで歌っている。

そんな話を中学3年生の男の子としていると、今までニコニコと私の話を聞いていたこの男の子が急に顔色を変えた。

「なんで日本が韓国や中国と手をつながないとあかんのや！あいつらが日本の領土を奪っとる張本人やないけ。竹島も尖閣も日本のもんじゃ！」

「従軍慰安婦とか南京大虐殺とかで因縁付けてくる輩となんで仲良くできるんじゃ」

「朝鮮人と中国人は日本から出て行け！」

何とも言えない嫌な感じの言葉を連発した。

まるで2チャンネルさながらの内容。

そういう情報をどこから手に入れたのか聞いてみると、彼は私にスマホを見せてくれた。

彼が保存しているフォルダには、中国や韓国を非難するサイトや動画がいっぱいあった。

カウンセリングをしていると、こんな若者に会う事が最近増えた。

普段はニコニコを大人しいのに、特定の話題になるとまるで人が変わったように攻撃性をむき出しにしてくる。

なんでそんなにむきになるんだろう・・・。

イスラム国の兵士達はみんな若者だ。

昨年空爆で死亡した、イスラム国のテロリスト実行犯の一人、ジハーディ・ジョンは27歳だった。

人質を殺害し、村を焼き払い、テロを続け、自分達の正義を押し通そうとする若者達。

テロに対する国際社会への批判や空爆による報復には、またテロで報復する。

なんで彼らは聞く耳を持たないのだろうか・・・。

遠い国の若者の話だと思っていたら、こんなに身近な所にも聞く耳を持たない中学生がいる。

古今東西と問わず、世界は自国と他国の間に起こる問題に直面する。

ヨーロッパでは難民の受け入れについて、EU諸国で意見が割れている。

難民を受け入れているドイツでは、学校に行きたくない少女が家出をして、男友達の所に泊っていたのに、避難民に誘拐されたというデマを流した。

そのことがきっかけで大きな騒ぎになった。

少女が驚いて、あれは嘘だったと撤回したので事無きを得たようだが、実にきな臭い話だ。

逆に避難民がひどい扱いを受けているというデマを、避難民を保護する団体の職員が流した事件も発生している。

ドイツでは自国民を守ろうという一部の団体が、かつてユダヤ人を弾圧した時のように、ファシズムによる外国人の排斥運動を始めている。

日本ではヘイトスピーチの問題が、国際的にも注目されている。

ネット上の発言に対して行われる、いわゆる「炎上」といわれる袋叩き。

リベンジポルノに2チャンネル。

どれもだいたい若者が中心の話だ。

耳を貸さない全ての若者にあてはまるかどうかは分からないのだが、この中学生はひどいいじめを受けていた。

自分がいじめられた腹いせに、なんの関係もない外国人を攻撃する。

そんな分かりやすいが、どこか怪しげな解説をしたわけではない。

中学生の彼は語った。

「ヘイトスピーチとか聞いてたらスカッとすんねん。警察とか、見ている人がやり込められていくのが面白いねん。みんな遠巻きに見てるだけで何にもできひん。文句言う奴がいたらスピーカーとか街宣カーで大声でみんなでやっつけたらええねん。悪いのは外国人なんやから、言われても仕方ないんや」

ひとりぼっちでいじめを耐えているよりは、大義名分を持った仲間たちと一緒に行動する方がはるかに温かい気持ちになるのだろうか。

世界中でイスラム国の兵士になりたいという若者がいて、その対応に各国が手を焼いている。

なんとか考え直させようと、家族も必死になって説得する。

しかし、周りが説得すればするほど頑なになるところもある。

新興宗教に走る若者のようだ。

第二次大戦の時は、親が反対するのにも関わらず、多くの若者が特攻隊に志願して、その若い命を散らしている。

日本中が戦争を鼓舞するような働きかけを国民にして、それを受け入れないと非国民と言われ、村八分にされる。  
それが嫌なのであからさまに戦争に反対できないのだが、気が付けば自分の子供が特攻隊に入り、名誉の戦死を遂げたいと言う。

そして、もう親でも誰でも彼らの固い決意を変えられない。

彼らをこんなに頑なに変えてしまう根底には何があるんだろう・・・。

そんな問いかけを歌で綴りたい。

たかが歌で世の中を変えることなどできない相談だ。

だけど歌い続けることで見えてくることもありそうだ。

平和を願う歌を歌い続けたい。